

第 2 回 部 会

R元(2019).12.3 (まちと活力)

R元(2019).12.4 (地域とくらし)

資 料 2 - 2

仙台市基本計画検討資料（修正版）

目 次

I	はじめに	P 1
	・ 計画の策定に向けて	
	・ 計画の対象	
	・ 計画の体系	
	・ 計画期間と将来人口推計	
II	新たな杜の都に向けて	P 5
	・ まちづくりの理念	
	・ 目指す都市の姿	
III	重点プロジェクト	P 12
IV	基本的な施策の方向性	P 25
V	区別計画	P 35
VI	総合計画の着実な推進	P 35
	・ 行政運営の方針	
	・ 進行管理の方針	
VII	資料編	P 35

I はじめに

1 計画の策定に向けて

まとめ

総合計画は、仙台市のまちづくりの指針です。
この計画には、仙台市が目指す都市の姿と、
その実現に向けた施策の方向性が書かれています。

計画を策定する理由 市民協働

これまでも私たちのまちは、市民一人ひとりによる主体的な行動と、
多くの方々による協働の積み重ねによって形づくられてきました。
変化の速度が年を追うごとに増す中であっても、
仙台市に関わる方々が、ともに進む方向を共有していくため、
この総合計画を策定します。

これまでの経過

現在に至るまで仙台市は、
戦後の人口増加・高度経済成長による都市インフラの拡大や、
政令指定都市への移行に象徴されるような成長の時代を経て、
質的な心の豊かさを志向する成熟の時代へとその歩みを進めてきました。
近年の東日本大震災では、沿岸部をはじめとして甚大な被害を受けましたが、
様々な立場の方々との協働により、確かな復興の歩みを続けてきました。

時代の潮流

近い将来に訪れる人口減少は、
社会制度の持続性や労働力の需給に大きな影響を与えます。
グローバル化のさらなる広がりやテクノロジーの進化は、
私たちの暮らしを一変させる可能性も内包しています。
そのため、これからのまちづくりにおいては、
今まで以上に多様な視点を織り込むことが求められています。

日本全体はすでに人口減少が始まっており、
今後も一貫して減少すると想定されるなかで、
特に東北地方の落ち込みは激しいと予測されています。
仙台市の人口も減少局面を迎えようとしています、
その進行の速度は東北地方の他地域と比べると緩やかであり、
東北の中で仙台市が担う役割について、グローバルな視点も併せ持ちながら、
改めて見つめ直す必要があります。

先の見えない時代に突入した今だからこそ、
揺らぐことのない確かな理念を持って、
このまちが歩むべき道標を示すことが重要です。
そしてその理念を私たちが広く共有し、
一人ひとりが持つ多様な価値観や経験を都市の活力に変えていくことが、
変化の激しい時代における私たちの役割だと考えています。

誰もが豊かに暮らすことができる未来に向けて、
これまで先人が培ってきた資産や知恵を余すことなく使いきるだけでなく、
新たな可能性を切り開くテクノロジーや価値観を率先して取り入れ、
多様な主体が持てる力を十分に発揮できる「新たな杜の都」を、
仙台市に関わるすべての方々とともに挑戦を重ねつくってまいります。

2 計画の対象

本計画の対象は、市内に住所を有する方だけでなく、
仙台市へ通勤・通学する方、市民活動団体、地縁団体、教育機関、事業者など、
様々な形で仙台市のまちづくりに関わる多様な主体を含めるものとします。
さらには、仙台を故郷とする方々、ビジネスや観光で仙台を訪れる方々のほか、
様々な機会を経て仙台に縁を感じ、関心を寄せる方々にも目を向けていきます。

3 計画の体系

総合計画は、まちづくりの理念と仙台市が目指す都市の姿、
そしてこれらを実現するための施策の方向性を総合的に示した『基本計画』、
目標を実現するための具体的な施策を定める『実施計画』で構成します。
また、時代の潮流を見極めながら必要な事業について柔軟に予算を組み、
長期的な展望を持ってまちづくりを進めていきます。

4 計画期間と将来人口推計

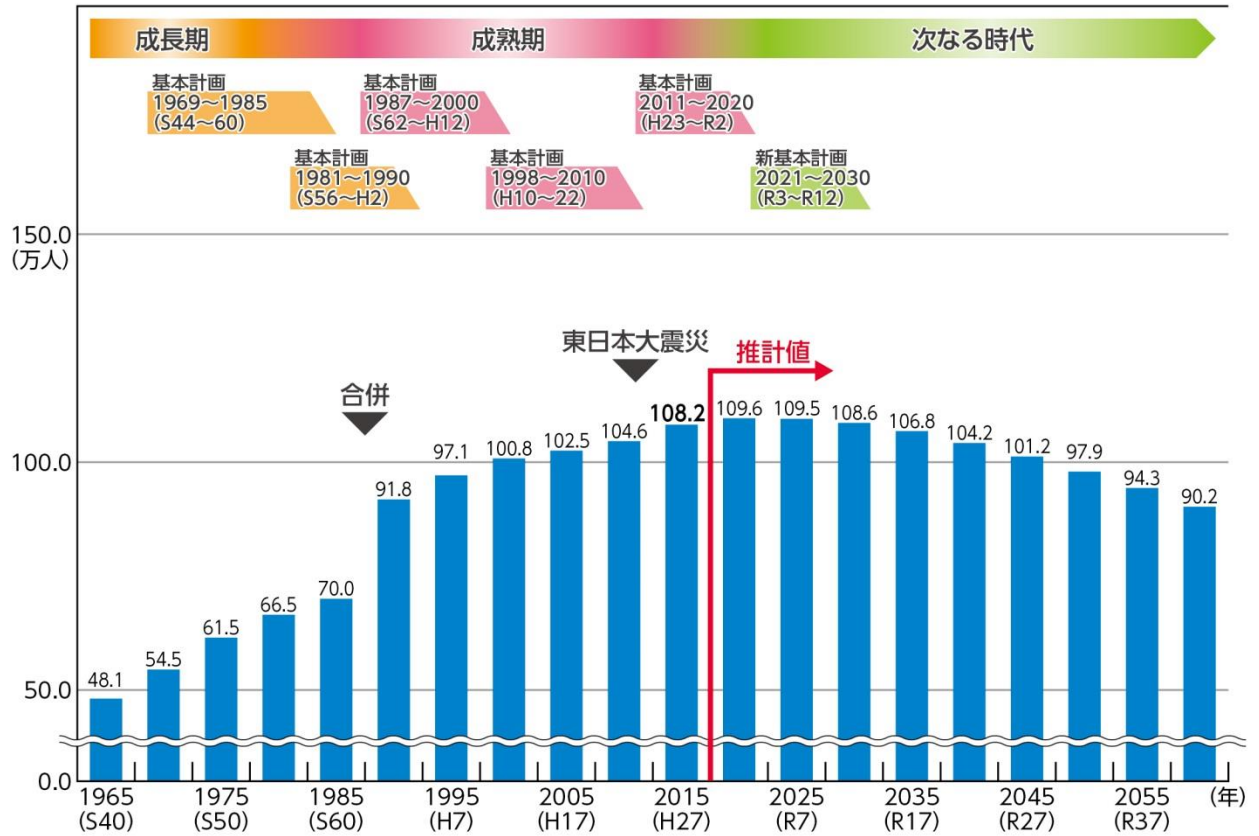
(1) 計画期間

『基本計画』の期間は10年間とし、
初年度を令和3年度(2021年度)、目標年次を令和12年度(2030年度)とします。
また、総合計画は行政運営の長期的な指針となるものであるため、
目指す都市の姿については、21世紀半ば(2050年頃)を見据えるものとします。
具体的な目標と施策を定める『実施計画』は、
『基本計画』の期間を3つに分割し、概ね3年間とします。

(2) 将来人口推計

仙台市の人口は近い将来にピークを迎え、その後緩やかに減少を続け、2050年頃
には100万人を割り込む見込みです。少子高齢化が進み、人口構成も変わることが
予想されます。

基本計画期間中に市全体の人口が大きく減少することはありませんが、人口動態の
変化は地域によって進行速度が様々であり、地域特性に応じたきめ細かな対応が必
要です。そして、人口減少が進む中であっても、多くの方が集い、まち全体の活力
を生み出すための基盤づくりに取り組むことが重要です。



Ⅱ 新たな杜の都に向けて

1 まちづくりの理念

挑戦を続ける、新たな杜の都へ

結論

先の見えない時代に突入した今、都市が歩みを続けていくためには、これまで培った仙台市の都市個性を深化させていくだけでなく、それらを掛けあわせることで、相乗効果を生み出しながら、まちづくりを推進するダイナミズムが必要だと考えます。

強みの概要

仙台市には、いくつもの誇るべき都市個性があります。開府 400 年を超える歴史資産である杜の都の「環境」、協働のまちづくりを追求してきた「共生」の理念、多くの若者が集う「学び」の都としての機能集積、東北唯一の政令指定都市として持続可能な「活力」を生み出す中枢機能と広域性に加えて、近年では東日本大震災からの復興を通じて世界に誇る防災力が培われてきました。

強みの源

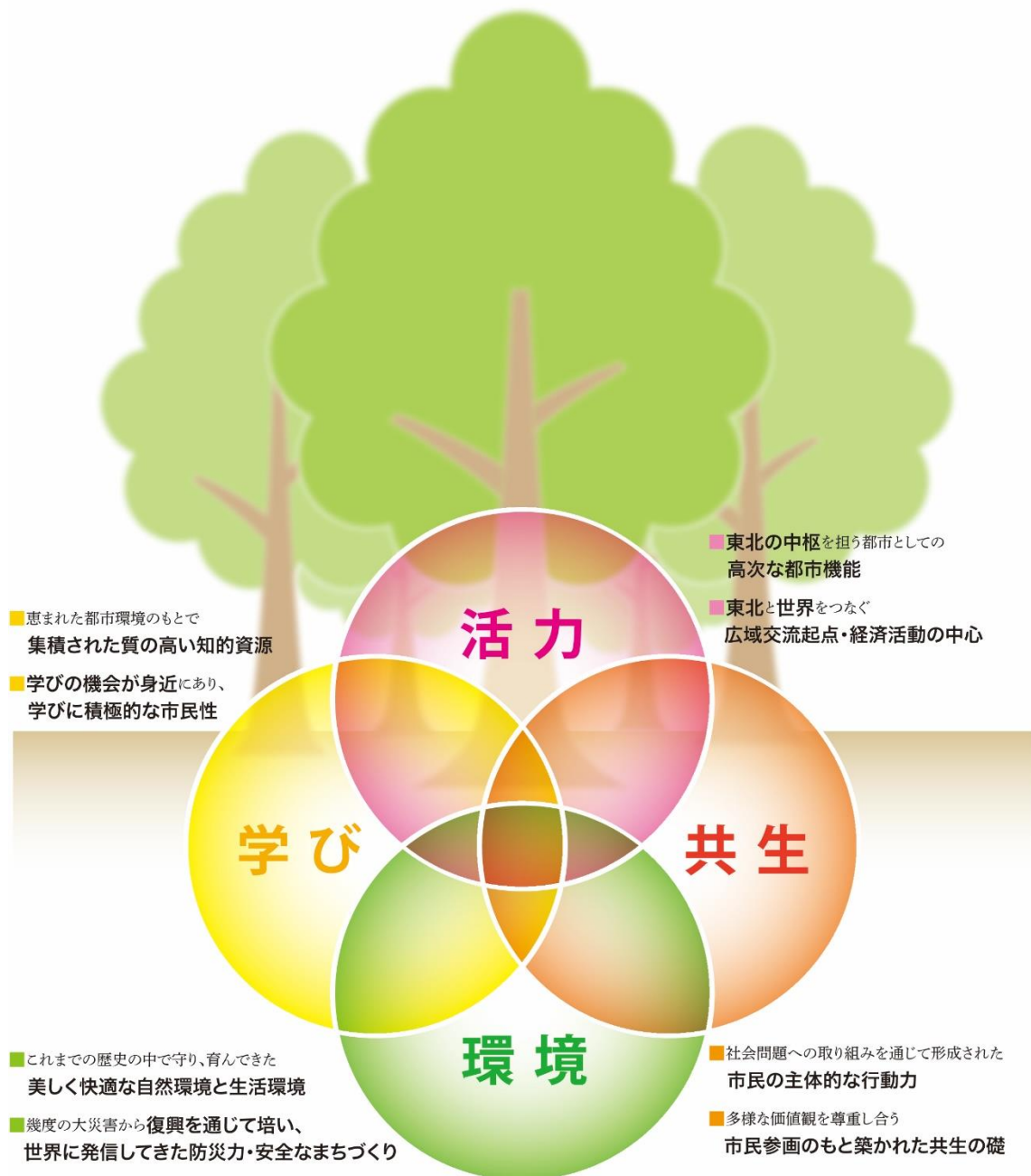
それらは、困難な状況に直面してもなお、より良いまちをつくりたいと行動を起こしてきた先人の想い、市民の力があつたからこそ築き上げられたものであり、市民協働によるまちづくりの積み重ねもまた、未来へ活かしていきたいかけがえのない財産です。

強みの掛けあわせ

豊かな自然と都市機能が調和した都市環境を舞台に、多様な主体による協働のもと、学びとチャレンジを重ねることで、東北を牽引する活力を生み出すため、仙台市の都市個性に立脚した強みを掛けあわせることで、相乗的にまちの魅力を高めていきます。

まちの新たな可能性を切り開くため、失敗にも学びながら、「挑戦を続ける」ことをまちづくりの理念として掲げ、仙台が仙台らしく輝ける新たな杜の都を目指します。

◆ 新たな杜の都の概念図



都市個性

環境（自然と都市機能が調和した都市環境）

これまでの歩み

仙台の代名詞である「杜の都」の由来は、藩祖伊達政宗公が、飢餓対策や建築資材確保を目的として植樹を奨励したことに端を発しており、屋敷林や庭園など緑が色濃く残る城下町の景観を指して、明治末期頃からこのように呼ばれるようになったと言われています。この言葉には、緑豊かな都市環境はもとより、「神社や寺、屋敷のまわりを取り囲んでいる緑、人々が丁寧に手入れをしてきた緑こそが仙台の宝」という緑を育ててきた人々の想いが込められています。

戦災により、都市部の緑の多くは失われましたが、青葉通や定禅寺通へのケヤキの植樹などの街路樹の整備や都市公園の整備などを通じて「杜の都」の再生は進められました。そして、高度経済成長期に都市環境が悪化する兆しがあった際にも、青葉山や広瀬川などの美しい自然や生活環境を守りながら、まちに杜を育むこの理念は今日まで受け継がれてきました。

未来へ

現在は、東日本大震災の経験と復興における教訓をもとに、防災や環境配慮の視点を「杜の都」の理念に織り込み、「防災環境都市」として安全で安心して暮らすことができるまちづくりを進めています。住みよい暮らしの実現のために、困難を乗り越え、より強く美しい未来を創る「杜の都」の理念は、このまちの原点です。世界的にも、災害の多発や環境問題などへの対応は大きな懸念事項となっていますが、グリーンインフラによって生み出される本市の快適性・安全性は重要な都市基盤であり、次の時代にふさわしい形で引き継いでいきます。



① 世界に発信する防災環境都市へ

- ◆ 「杜の都」の豊かな自然と市民の暮らしや都市機能が調和した、世界に通用する住みよさと風格を実感できるまち
- ◆ 「仙台防災枠組」の採択都市にふさわしい都市環境と災害対応力を備え、国内外の防災力の向上に貢献できるまち

1960年代以降、高度経済成長により都市が飛躍的な発展を遂げる中、本市では人口の過密による衛生上の問題や公害の発生など、生活上の様々な課題が顕在化しました。そのような社会背景のもと、障害のある方は「生活圏拡張運動」を展開し、歩道や公共施設の段差など物理的・社会的な障壁の解消に声を上げました。市民による市政への参加により「福祉のまちづくり」が進められた結果、本市は日本で初めて「身体障害者福祉モデル都市」の指定を受けることとなり、バリアフリーのまちづくりは本市から全国に広がったと言われています。

同時期には、住民と行政が一体となって、急速に汚濁の進んだ梅田川の清流を取り戻す運動が行なわれ、全市に広がりました。また、春先の粉塵公害の解消を目指して1980年代に行われた脱スパイクタイヤ運動は、県や企業を動かし、国に立法を迫るほどの大きなうねりになりました。近年では、2011年の東日本大震災発生時、町内会をはじめとする地域団体やNPO、企業など多様な主体それぞれの持つ強み、支え合いの力が復興の推進力となりました。このように、仙台市では市民による行動の積み重ねによって、暮らしやすいまちのあり方が模索され、共生の礎が築かれてきました。

少子高齢化の進展や単身世帯の増加など、個人や地域を取り巻く環境は大きく変化しています。このような変化の中で、誰もが地域で共生できる社会を構築するためには、年齢、性別、国籍、障害の有無などの多様性をそのままに尊重し、認めあう社会が必要とされています。そのような社会を目指し、一人ひとりの多様な経験が社会の豊かさにつながり、より良い暮らしに向けて障壁を乗り越えることができるよう多様な立場にある方々との協働を重ねながら共生できる社会を創り上げていきます。

② 多様性が社会を動かす共生のまちへ

- ◆ 心と命を守る支え合いのもと、あらゆる人が社会に溶け込み、多様性が尊重され、そのままに包摂される、誰もが安心して暮らすことができるまち
- ◆ 一人ひとりが持つ多様な価値観、経験や創造性を、社会全体がより良い方向に進むための力に変えるまち

仙台市には、大学をはじめとする教育機関が集積しており、多くの若者がこの地で集い学ぶ、豊かな学びの環境があります。古くは藩政時代、藩校養賢堂や寺子屋等での学びに始まり、1872年の学制公布以降には全国で2番目に古い官立学校が設置され、公立・私立を問わず多数の教育機関が創設されました。鎌倉時代から続く伊達家の文芸を尊び好奇心に溢れる気風のもと、豊かな緑によって静寂と清浄に包まれた市街地は学びの場にふさわしく、多くの市民にとって多彩な学びの機会があったことで、このまちは「学都」と呼ばれるようになったと言われています。そして、現在の総人口に占める大学生と短大生の割合は他政令指定都市と比較して高い水準にあります。

戦後には社会教育が開花したことも加わり、これまで多くの人々がこの地で学び、数々の文化人が輩出されてきました。このまちがこれまで育んできた質の高い知的資源と、学術・文化を尊ぶ風土は、創意と工夫が求められるこれからのまちづくりにおいて大きな強みとなるものです。

子どもたちが安心して健やかに育つ環境を学びの起点とし、学生、社会人、高齢者と年を重ねてなお、チャレンジできる成長の機会を創出していくことが重要です。学都としての強みに加え、特に東日本大震災以降、高まりを見せている若者をはじめとした社会への貢献意識を結びつけ、次の社会を創る力に変えていきます。



③ 学びと実践の文化が根付くまちへ

- ◆ 子どもたちが、個性を尊重されて健やかに育ち、未来への希望を抱きながら学ぶ喜びや仙台への愛着を実感できるまち
- ◆ 全ての人に成長の機会があふれ、次の仙台を創る担い手が育ち、東北や世界の未来にも貢献できる人材を次々と輩出する学びとチャレンジのまち

江戸時代、藩祖伊達政宗公は現在の都心部に城下町を築きましたが、それはまちそのものを創り出す一大事業でした。現代の都心部の骨格としても脈々と受け継がれている碁盤の目状の都市計画や暮らしに必要な用水の確保など、創造から生まれたこのまちには、新しい技術や知恵を取り込む創意工夫が尊ばれる進取の気風が育まれてきました。文化的な観点でも、市民の手によって育まれてきた仙台七夕まつりや定禅寺通ストリートジャズフェスティバルのように、賑わいをもたらす力として、その精神は息づいています。

一方、仙台市は、明治時代から高度経済成長期を経て築かれた広域的な都市基盤を有しており、東北を統括する様々な都市機能が集積しているとともに、国際的・広域的な交流の拠点となる仙台空港や仙台港、高速道路などのインフラ環境が充実しています。加えて、東北6県から流入する方々に支えられている人口構造など、本市の活力は東北地方との深い結びつきの中から生み出されている点にも大きな特徴があり、東北の未来と向き合い、仙台市が担うべき役割を再定義することが必要です。

東北を牽引していくための中心的な舞台となる都心部の機能の強化など、まちに新しい変化を吹き込む機運が盛り上がりつつあります。そうした鼓動を地域経済の活性化や交流促進につなげ、一人ひとりの創造性が開く文化を醸成し、仙台市という自治体の枠を超えた魅力あるまちづくりを進めていきます。



④ 東北の活力を生み出す創造のまちへ

- ◆ 企業や起業家等を惹きつけ、新たな価値を生む創造性が開かれ、地域経済の活性化や社会課題解決、東北の活力につながるまち
- ◆ 東北、世界を結びつけるハブ機能を持つ都市として、グローバルな経済活動や、誰もが楽しめる多彩な交流活動が促進されるまち

Ⅲ 重点プロジェクト

- ・国内外には、歴史や文化などから成る独自の魅力を磨き上げ、多くの人を惹きつけている都市があります。人口や経済など規模のみによる優位性ではなく、個性が際立つ都市を目指して、世界や東北の中の仙台という視点を持ちながら、まちづくりの様々な場面に4つの都市個性を活かしていくことが重要です。
- ・一方、国内外で多発する災害や環境問題への対応、人口減少・少子高齢化がもたらす労働力不足や地域コミュニティへの影響、変化の激しい時代における次世代の育成など、時代の潮流も意識したうえで、取り組む方向性を定めていく必要があります。また、世界的にはSDGs（※）への関心も高まっています。
- ・「挑戦を続ける」という理念のもと、新たなテクノロジーや多様な価値観を活かし、協働を通じて仙台らしさを磨き上げる取り組みを、6つの重点プロジェクトとして推進していきます。

- 1 未来へつなぐ防災環境プロジェクト
- 2 みんなでつくる地域未来プロジェクト
- 3 笑顔はなまる子どもプロジェクト
- 4 いきいきライフデザインプロジェクト
- 5 TOHOKUチャレンジプロジェクト
- 6 せんだい都心再構築プロジェクト

※SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年の国連サミットで採択された2030年までの持続可能な開発目標です。誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するための17のゴール、169のターゲットにより構成されています。

重点プロジェクトでは関連する主なゴールを示しています。SDGsを共通言語として、同じ目的意識を持った方々との協働に向けた一つのきっかけにしていきたいと思えます。



1 未来へつなぐ防災環境プロジェクト

目標

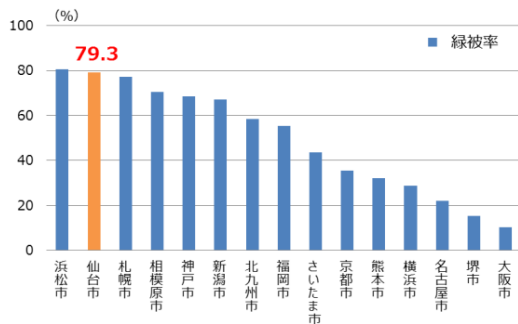
防災環境都市のブランド力向上、世界への発信

これからの住みよいまちであり続けるには、あらゆる面で防災と環境の視点を取り入れることが重要です。杜の都の緑豊かな自然環境を発展的に守り育てる取り組みを進めるとともに、「仙台防災枠組」の採択都市として、将来の災害や気候変動のリスクなど様々な脅威に備えた世界に誇るしなやかで強靱な都市を目指します。

現状

自然環境

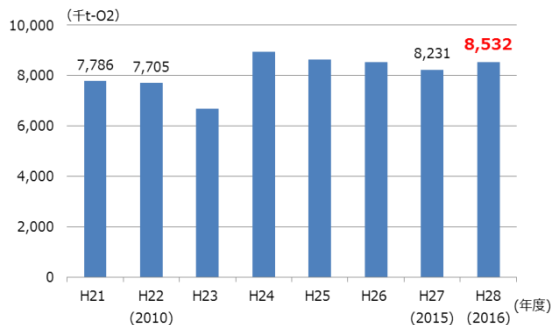
- 本市の緑被率は政令市の中で2番目に高く、1人あたりの公園面積も多いなど、緑豊かで身近な自然環境を有しています。
- 地球にやさしい持続可能なまちの構築に向けて、自然生態系の持つ多機能性を活かしていく必要があります。



出典：仙台市建設局資料

温室効果ガス排出量

- 震災後に増加した温室効果ガス排出量は近年ほぼ横ばいで推移しており、排出削減の取り組みが必要です。
- 再生可能エネルギーの導入促進や消費エネルギーの削減など、脱炭素社会の実現に向けて様々なアプローチから取り組む必要があります。



出典：仙台市環境局資料

未来へ残していきたい仙台の魅力

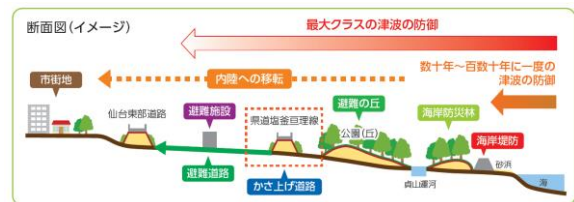
- 仙台の魅力についての市民アンケート（平成30年度、自由回答形式）によると、「杜の都」に関連する記述が最も多く、延べ回答件数に対して約3割を占めています。
- これらの魅力は、市民が愛着と誇りを感じる財産となっています。

	%
1 緑豊か、緑が多い	8.8%
2 自然豊か(山、海、川など)	7.2%
3 杜の都	6.9%
4 自然と都会の調和	5.8%
5 ケヤキ並木	2.0%
6 街並み・景観	1.7%
7 広瀬川	0.9%
8 定禅寺通り	0.9%
9 青葉通り	0.1%
10 その他	0.4%
合計	34.6%

出典：仙台市まちづくり政策局資料「平成30年度施策目標に関する市民意識調査」

みどりを活用した多重防御

- 被災した東部地域の再生に向けた地域づくりに向けて、複数の施設で津波を防ぐ多重防御、津波から逃れる避難場所の整備、住まいの移転を組み合わせた対策を講じました。
- 海岸林をはじめとした多重防御は、生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の考えを取り入れています。



出典：仙台市まちづくり政策局資料



01 防災環境×ひと

- 子どもたちへの防災教育などを通じた防災・減災意識の高い人材の育成
- 学校、地域、企業、行政など関係団体間の連携を促進させた地域防災力の向上
- 杜の都の自然環境を守り、活用する人材の育成・確保

02 防災環境×まち

- 脱炭素社会への取り組み（再生可能エネルギー導入促進、消費エネルギー削減）
- 市民や企業等との協働によるプラスチック資源の循環に向けた取り組み
- 国土強靱化地域計画等に基づく、あらゆるリスクを想定した安全安心なまちづくりの推進、インフラ整備における長寿命化・耐震化

03 防災環境×グリーンインフラ

- 魅力ある都市景観の構築と自然災害リスクの低減、気候変動の緩和を念頭に置いた緑化の推進
- 民間活力導入等による公園の魅力向上など、緑の多機能性を有効に活用した市民が楽しめる環境づくり

04 防災環境×チャレンジ

- まちづくりに防災と環境配慮の視点を織り込むとともに、世界への発信による防災文化への貢献と防災環境都市としてのブランド力の向上
- 先端技術を取り入れた防災力向上に資する防災ビジネスの活性化促進

2 みんなでつくる地域未来プロジェクト

目標 多様な主体が積極的に関わり合う、開かれた地域づくり

地域によって人口減少・少子高齢化の進行の度合いや抱えている課題は様々であり、よりきめ細かな視点による対応が重要です。町内会をはじめとして、地域で活動する団体や NPO、企業など多様な主体が関わりあい、それぞれが協働することで、地域への愛着を深めるとともに、より良い暮らしにつながるよう、開かれた地域づくりを進めます。

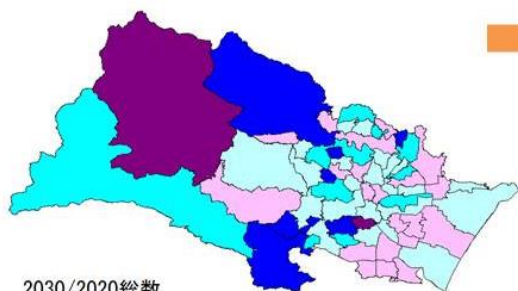
現状

人口増減（2020 年を 100 とした場合）

- 人口推計によれば、2020 年を 100 とした場合、2040 年には全市平均で 94.6 まで人口が減少します。その進行には地域差があり、急激なところも、緩やかなところもあります。
- 地域ごとに現れる課題は様々であり、その対応方法も地域ごとに異なります。

2030 年（推計）

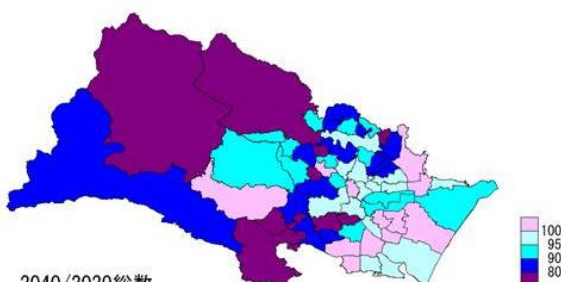
全市平均 98.6



2030/2020総数

2040 年（推計）

全市平均 94.6



2040/2020総数

出典：仙台市まちづくり政策局政策局資料

未来技術の活用例

- 地元企業等との協働により、最先端技術の活用が進んでいます。
- 公共交通機関以外の交通のあり方を考えていく必要があります。

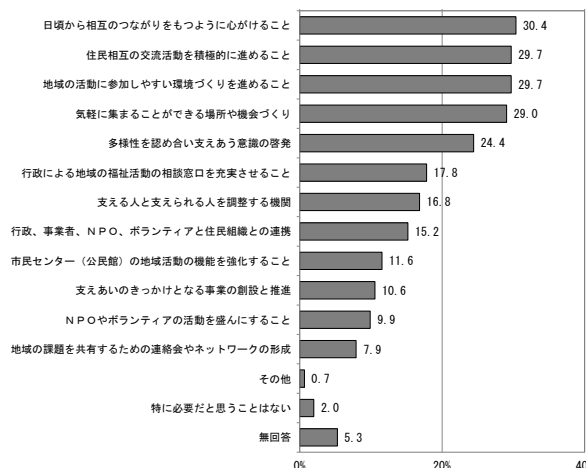


出典：仙台市まちづくり政策局政策局資料（自動走行実験の例）

地域における支え合い

- 住民相互の交流の機会づくりや、多様性を認め合う環境づくりが求められています。

問：地域における住民相互の支えあいの仕組みづくりで、あなたが特に必要だと思うことはどのようなことですか。（複数回答）



出典：平成 28 年度仙台市障害者等保健福祉基礎調査報告書

(n=303)



01 地域×支え合い

- 住民同士の支え合いと関係機関等との連携による、誰もが地域で安心して生活できる仕組みづくり
- 多様性の理解促進（年齢、性、国籍、障害の有無などの多様性の理解促進、交流の場づくり等）
- 持続可能な地域づくりの支援と担い手の確保
- 多様な主体が垣根なく地域づくりに関わりやすい仕組みづくり（テーマ型コミュニティの構築支援、連携強化、コーディネーターの確保・育成）

02 地域×交通

- 通勤・通学、買い物や通院などに欠かせない移動手段について、公共交通機関の行き届かない地域などを対象とした、地域交通のあり方の検討・実践
- モビリティ・マネジメントなど既存の公共交通機関の利用促進と、公共交通以外の新しい仕組みの検討

03 地域×未来技術

- 地元企業の CSR 活動や CSV 活動の促進、企業が地域で活動しやすい仕組みづくり、スマートシティの取り組みや先端技術など企業が持つノウハウの未来のまちづくりへの活用
- 企業との協働を通じた、自動走行や MaaS など最先端の交通サービスの導入に向けたモビリティチャレンジの推進

04 地域×交流

- 地域独自の資源や生活文化、東部地域や中山間地域などにおける農との関わりなどを通じた地域内外の交流促進、地域への愛着喚起

3 笑顔はなまる子どもプロジェクト

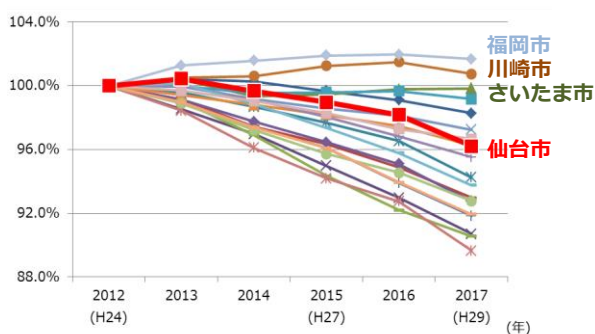
目標 子どもたちの笑顔が広がる、子ども・子育て応援まちづくり

子どもは未来への希望そのものです。境遇に左右されることなく、心から笑顔で育つ環境づくりと、社会全体で子どもの育ちと子育てを応援していく環境づくりに取り組みます。そして、子どもを通じて家庭はもちろん、関わる方々も生きていく上で大切なことを新たに学ぶことができる、みんなが成長していく子育て応援社会を目指します。

現状

0～4歳人口推移（政令指定都市比較）

- 0歳～4歳人口増加率の上位3つは、福岡市、川崎市、さいたま市です。仙台市は中位ですが増加率は低下しています。
- 希望する方々が子どもを産み育てやすい環境づくりを進めていく必要があります。



出典：総務省住民基本台帳（H24を100%としたときの推移）

全市民アンケート結果

- 仙台市が目指す状況について、今後の取り組みが「特に重要である」の回答率が最も高かったのは「仙台で育つ」でした。また、「未来に向けて力を入れるべきだと思う取り組み」について「仙台で育つ」に関する自由回答の意見数上位5項目は下記のとおりであり、全体の中でも上位でした。
- 子どもや子育てを取り巻く環境について市民の関心は高く、市民のニーズや課題認識に沿った取り組みを進める必要があります。

<「仙台で育つ」上位項目>

1位	子供、子育て支援
2位	教育・学力
3位	いじめ・不登校対策
4位	保育所・保育サービス
5位	子どもの遊び場

出典：全市民アンケート（まちづくり政策局）

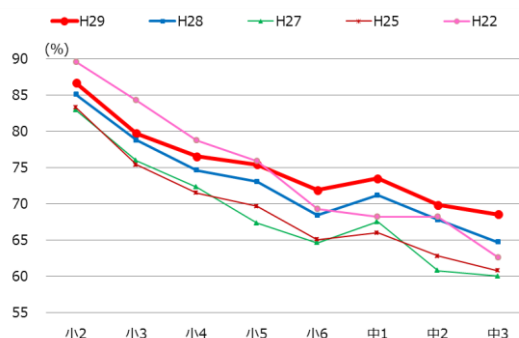
次代を担う子どもたちの学びの環境づくり

- 英語教育やプログラミング教育が本格化しますが、時代の変化に柔軟に対応し、子どもたちがたくましく生きていくための新たな学びの環境づくりに取り組む必要があります。



「自分には良いところがある」割合の推移

- 自己肯定感に関する質問に対し、肯定的に回答する児童生徒の割合は増加傾向にあります。
- 児童生徒が社会を生き抜く力を育む取り組みを進めていますが、その土台となる自己肯定感を育む取り組みが引き続き必要です。



出典：仙台市生活・学習状況調査（教育局）



実施の方向性

01 子ども×社会

- 子どもの目線に立って、いじめや不登校、虐待など子どもに関する諸課題に対応し、地域社会全体で子ども・子育てを応援していく機運の醸成
- 貧困対策（学びや遊び、地域交流の場づくり）、ひとり親家庭への支援

02 子ども×家庭

- 子育ての自信と喜びにつなげる支援体制の強化（育児環境における孤立防止に向けた相談体制の充実、親への子育てを学ぶ機会の提供）
- 身近に相談できる人がいない方や同じ悩みを抱える方、これから子どもを産みたい方など子育て世代が気軽に集い情報交換できる機会の創出

03 子ども×未来デザイン

- 職業体験や社会人との関わりの場づくりなどを通じた、子どもたちの職業観の醸成
- 探求的な学びなど、子どもの興味を掘り下げ、個性を伸ばす新しい学びの仕組みづくり
- 歴史資産をはじめとした地域を知る機会や、住民と触れあう機会の創出などによる、社会性や地域への愛着を育む取り組みの推進

04 子ども×FUN

- 子連れで外出しやすく、ストレスなく子育てを楽しめるまちづくり（子育て家庭に配慮した開発誘導、子育て世代も楽しめる街中の魅力づくり、公園の利活用）
- 自然資源や四季折々のイベント、文化・スポーツとの触れ合いなど、子どもたちが楽しみながら様々な体験ができる環境づくり

4 いきいきライフデザインプロジェクト

目標

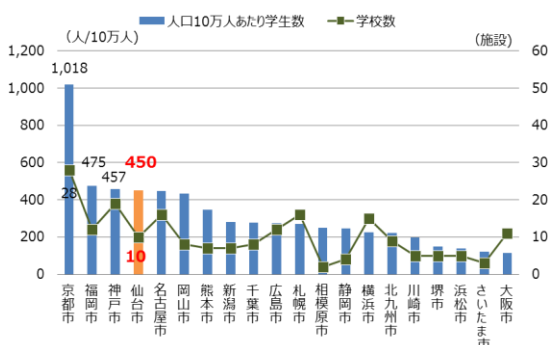
自分らしく生きるための人生設計・チャレンジの応援

人生100年と言われる時代には、健康や学びが、豊かな人生を送る重要な鍵となります。世代を通じた健康づくりを進めるとともに、学びによる成長の機会を創出し、将来への希望を描ける環境づくりに取り組みます。そして、働き方をはじめ、誰もが自分らしい生き方を見出し、それが地域や経済の活性化につながるまちづくりを進めます。

現状

人口10万人当たりの学生数（大学及び大学院）

- 仙台市は、学生の人口に対する割合が政令指定都市中5位と上位です。
- 教育機関の知見やこれから社会に出る学生の参画をまちづくりに活かす視点が必要です。



出典：学校基本調査（文部科学省）

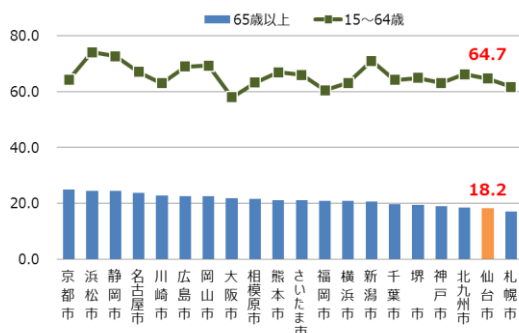
せんだい中高生会議

- 総合計画策定にあたり、未来の仙台を担う中高生にこれからのまちづくりについて提案をしてもらいました。若者の豊かな発想を、今後のまちづくりに活かしていく視点が重要です。



年齢別階級別職業率

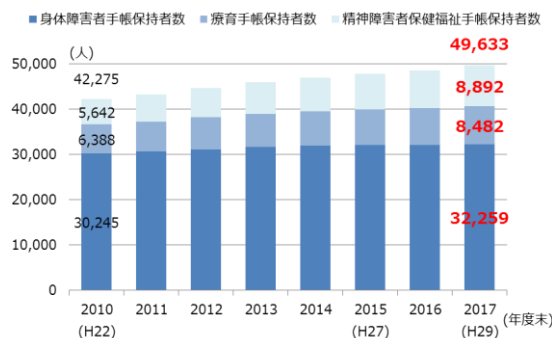
- 15～64歳の就業率は政令市では中位ですが、65歳以上の就業率は19番目です。
- 就労意欲がある高齢者が、働きやすく、知見を活かせる就労環境づくりを進める必要があります。



出典：国勢調査結果（総務省統計局）

障害者手帳保持者数

- 全体的に増加傾向にあり、特に「精神障害者保健福祉手帳保持者」と「療育手帳保持者」が増加しています。
- そうした状況や昨今の障害者の法定雇用率の増加などを踏まえ、障害のある方が働きやすい環境づくりに取り組む必要があります。



出典：仙台市健康福祉局資料



実施の方向性

01 学都×地域デザイン

- 教育機関の知見、児童生徒・学生等の柔軟な発想を活かし、地域における様々な主体とともに、地域の魅力創出に向けチャレンジできる場づくり
- 若者の考えを政策形成や課題解決などに活かせる仕組みづくり

02 働き手×キャリアデザイン

- 個々人の状況（育児、介護等）に合わせた多様な働き方を応援する環境づくり（テレワーク、在宅勤務、兼業・副業など）
- キャリアアップ・キャリアチェンジにつながるリカレント教育の推進
- 起業支援（起業しやすい環境の整備、起業のすそ野拡大）

03 高齢者・障害者×アクティブデザイン

- 経験豊かな高齢者と専門的な仕事や地域づくりへのマッチング
- 障害のある方・事業者相互の理解促進による充実した就労環境づくり、東京パラリンピックを契機としたパラスポーツをはじめとする多彩な交流の促進

04 全世代×ヘルスデザイン

- 子どもから高齢者にわたる健康意識の向上と心の健康づくり。民間企業等と連携した、楽しみながら取り組める健康プロジェクトやスポーツ振興
- ICT業界との連携による、医療や介護分野が抱える課題解決の促進、健康産業の振興

5 TOHOKUチャレンジプロジェクト

目標

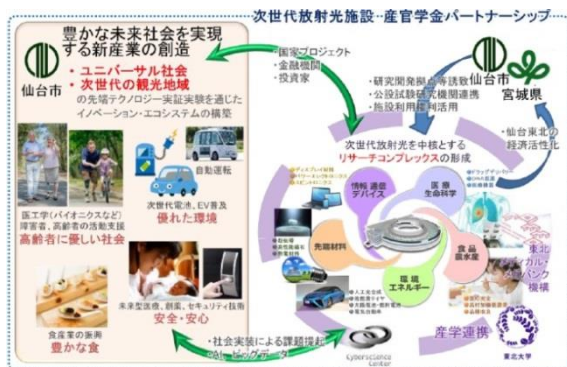
東北を舞台にした社会課題解決・持続的発展モデルの構築

人口減少が進み課題の先進地といわれる東北の創生なくして仙台市の発展を望むことはできません。本市の中核機能や学都としてのポテンシャルを活かし、東北全体をチャレンジフィールドと捉えて社会課題を先進ビジネスモデルへとつなげる仕組みを構築するとともに、東北の交流人口拡大による地域経済の持続的発展に取り組みます。

現状

次世代放射光施設の展望

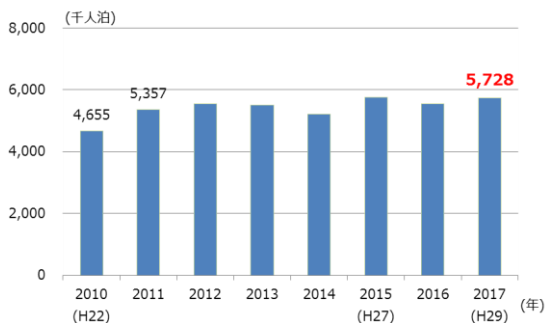
- 2023年度の施設稼働を予定している「次世代放射光施設」は、仙台・東北の産業におけるイノベーションや付加価値の創出などにつなげ、地域経済への波及効果が期待されています。



出典：仙台市経済局資料

宿泊者数の推移

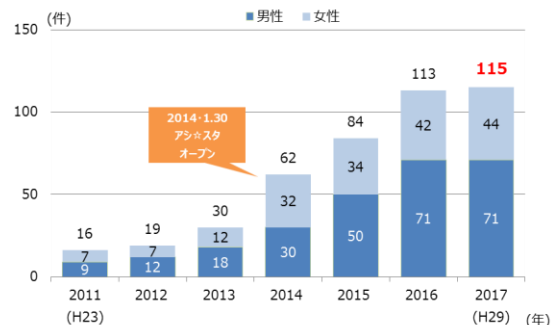
- 仙台市は震災以降550万人前後で推移しており、2017年は震災前（2010年）比23%増の572.8万人泊と全国平均と同等の伸びとなっています。
- 2017年の東北全体の延べ宿泊者数は、震災前と比べ5%増にとどまっており、東北全体を視野に入れた交流人口拡大の取り組みが求められます。



出典：仙台市文化観光局資料（仙台市観光統計基礎データ）

開業支援件数の推移数

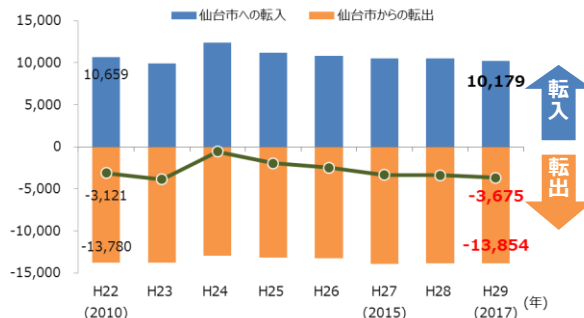
- 2014年の起業支援センター（アシスタ）の開業以降、起業相談・開業支援件数は増加しています。
- 起業のすそ野の拡大を雇用創出などの地域経済活性化につなげていくため、起業後のフォローアップの充実とともに、起業家の輩出・育成に努める必要があります。



出典：仙台市経済局資料

東京圏に対する転入転出の状況

- 東京圏に対しては、毎年2万人規模の転入転出が続いており、震災直後を除いては、おおむね毎年3千人強の転出超過となっています。
- 魅力ある地元企業の創出やキャリア教育、UIJターン促進に取り組む必要があります。



出典：仙台市市民局資料



実施の方向性

01 東北×科学技術イノベーション

- 次世代放射光施設整備を見据えた研究開発機関や関連企業の立地・集積によるリサーチコンプレックスの形成、活用に向けた東北の企業のチャレンジ応援
- 東北の地域産業の強みや課題を切り口に、先端技術を活用した新たな製品やサービスを生み出す仕組みづくり
- 大学の知的資源を活かした大学発ベンチャーの推進

02 東北×ソーシャルイノベーション

- 東北全体をフィールドと捉えた社会起業家の育成・成長支援、社会的・経済的なインパクトを生み出すロールモデル起業家を輩出するエコシステムの創出
- 東北のソーシャルイノベーションの現場を通じた学びの場づくり、さらなる社会起業家の集積や多様な主体との協業の創出

03 東北×広域観光

- 東北の魅力を発信する拠点づくり、東北におけるネットワークの強化
- 多彩な祭りをはじめとした東北の豊かな自然・歴史・文化などの資産を活かした誘客促進、東北全体を視野に入れたシティプロモーション

04 東北×若者

- 若者等の地元定着や高度人材等のUJターン就職による人材確保の促進
- 魅力ある雇用の創出に向けた地域経済を牽引する企業の輩出、グローバルなビジネス展開や新事業創出への支援など地元企業の成長促進

6 せんだい都心再構築プロジェクト

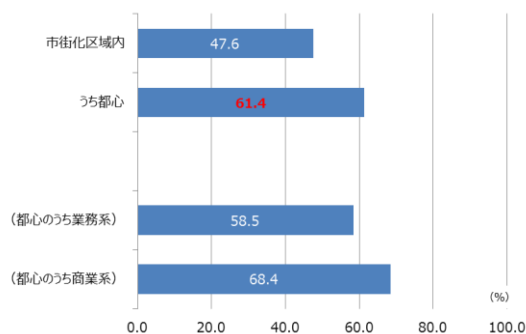
目標 杜の都の象徴としての価値を高め、賑わいと活力を生み出す都心の構築

仙台市の都心は、多くの人々が集まる交流の要所であり、仙台の顔ともいべき場所です。「杜の都・仙台」を象徴する通りやエリアの特性を最大限に活かしながら、創意を持つ多様な主体と連携し、働く場、楽しむ場として多くの人が集い、賑わいと交流、持続的な経済活力が生み出される都心をつくります。

現状

都心の建築物

- 都心における 30 年以上経過した建築物の割合は 6 割を超え、特に旧耐震基準（昭和 56 年以前）のオフィスの割合は約 4 割となっています。
- 時代の潮流を捉えた質の高い都市環境を形成するためには、建築物の新陳代謝を高める必要があります。



出典：仙台市都市整備局資料

人の流れ（歩行者通行量等）

- 仙台駅周辺に人の流れが集中しているほか、都心来訪者の平均立ち寄り箇所数は 2 箇所未満と、目的地以外への回遊があまり見られません。
- エリアごとの多彩な魅力を引き出し、都心全体へ回遊性を高める取り組みが求められます。

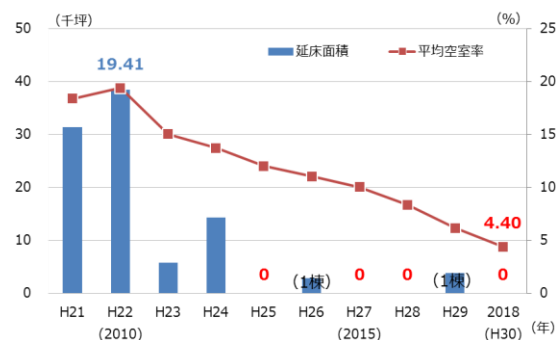
(単位：人/11h)

調査地点	地点名	H31通行量 (前年比)	通行量比
1	仙台駅・東西自由通路 (東口改札前)	69,535 (1.22)	1.00
2	ベドストリアンデックス-PAL前	58,158 (1.04)	0.84
3	松澤蒲鉾店前 (名掛丁)	60,619 (1.07)	0.87
4	三瀬不動産・三原堂前 (グリスロード)	61,416 (0.96)	0.88
5	藤崎前 (おおまち)	48,871 (1.03)	0.70
6	京雅堂仙台一番町前 (サンモール)	16,144 (1.02)	0.23
7	大井宝石店・フォーラス前 (一番町一番街)	43,696 (0.92)	0.63
8	カワイ・浅夕前 (一番町四丁目)	33,616 (0.91)	0.48

出典：2019 年度仙台市中心部商店街の通行量調査結果
(仙台市、仙台商工会議所)

オフィス供給量と企業誘致件数

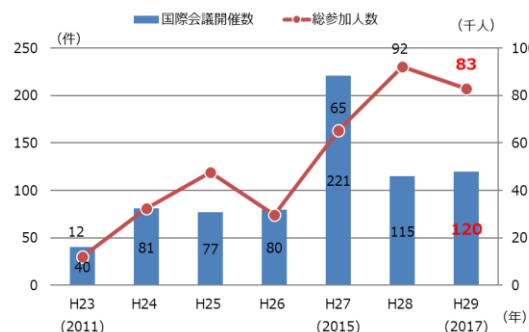
- 平均空室率は年々低下し、現在は 4.4% と大きく改善していますが、オフィスの新規供給はほとんどありません。
- 近年は新規開業率が高く、企業誘致件数が増加しているため、企業ニーズに合った受け皿を整える必要があります。



出典：オフィスレポート 仙台 2018 (三鬼商事) を仙台市で加工

交流人口

- 宿泊数、外国人宿泊者数ともに近年は増加傾向にあり、特にコンベンション参加者数は大きく増加しています。
- MICE 参加者の アフターコンベンションなど、都市型観光の促進とともに、消費を拡大させる取り組みが必要です。



出典：国際会議統計 (日本政府観光局)



実施の方向性

01 都心×イノベーション

- 老朽建築物の建て替えやニーズに合ったオフィスビルの整備促進など、国内外からの投資を呼び込む国際競争力のある魅力的なビジネス環境の整備
- 地元企業、起業家、大学や国内外の企業の交流の密度を上げ、イノベーションを生み出すための仕掛けづくり、新たな事業の創造を応援する文化・コミュニティの醸成（スタートアップエコシステム構築）

02 都心×リノベーション

- 都市公園や道路などの公共空間、民間の遊休不動産のさらなる利活用などを通じた、人と文化が織りなす新たな賑わいの創出
- 都市のリノベーションを積極的・自発的に進めることができる多様な価値観を持つクリエイティブな人材の発掘・育成・支援

03 都心×回遊

- 都市機能の誘導、都心交通の再構築、魅力的な公園の活用や多彩な資源を活用した体験プログラムの創出、中心部商店街の活性化など、多くの人々が訪れ、歩きたくなる面的な賑わいの創出（市役所本庁舎建て替え、勾当台公園市民広場、音楽ホール整備の検討等）、杜の都にふさわしい街並み景観づくり
- 定禅寺通や青葉通、宮城野通の活性化をはじめ、通りの特性を活かしたエリアマネジメントなど地域主体の取り組みの促進

04 都心×防災環境

- 建築物の建て替えなどを通じた防災力や環境性能の向上（ゼロ・エネルギー・ビルディングやグリーンビルの推奨等）
- 個性ある公園や街路樹など、憩いと安らぎを生む緑のネットワークの充実

IV 基本的な施策の方向性

1 施策の体系

【環境】世界に発信する防災環境都市へ	
1 防災環境都市づくり	(1) 東日本大震災の経験と教訓の継承・発信 (2) 防災意識の高い地域づくり (3) 強靱な都市基盤の整備 (4) 防災を通じた地域経済の活性化
2 環境に優しい快適に過ごせるまちづくり	(1) 脱炭素社会を目指したまちづくり (2) 資源循環まちづくり (3) 自然と共生したまちづくり
3 杜の都の息吹を感じられるまちづくり	(1) 暮らしを彩る緑の活用 (2) 歴史と風格を感じるまちづくり (3) グリーンインフラの導入
【共生】多様性が社会を動かす共生のまちへ	
1 長寿を謳歌し健康で生きがいをもって暮らせるまちづくり	(1) 健康で生きがいを持って活躍できるまちづくり (2) 住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり (3) 介護サービス基盤の充実と人材確保
2 障害のある方もない方も違いを尊重し、支えあうまちづくり	(1) 共生社会の実現に向けた障害理解の促進 (2) 障害のある児童や発達に不安を抱える児童への支援 (3) 安心して暮らせる生活環境の整備 (4) 生きがいにつながる就労と社会参加の促進
3 子育てしやすいまちづくり	(1) 切れ目のない子育て支援の充実 (2) 安心して子どもを預けることができる環境づくり (3) 子どもたちを守るセーフティネットの強化 (4) 子育て応援まちづくり
4 多様な主体が地域で関わり、支えあうまちづくり	(1) 地域の顔が見える関係づくり (2) 多様な主体が連携する環境づくり (3) 多文化共生社会づくり (4) 男女共同参画の推進 (5) 多様な性のあり方を尊重する環境づくり (6) 安全安心な暮らしを支える環境づくり (7) 郊外地域の地域再生 (8) 誰もが安心して共生できる地域福祉の推進

【学び】 学びと実践の文化が根付くまちへ

1 子どもたちが健やかに学び 成長する環境づくり	(1) 個性と社会性を育む環境づくり (2) 確かな学力の育成 (3) 地域とともに歩む学校づくり (4) 安心して学べる環境整備
2 学都・仙台の資源を活かした まちづくり	(1) 若者の力を活かしたまちづくり (2) 知的資源を活かしたまちづくり
3 多彩な学びを楽しみ 社会に活かせるまちづくり	(1) 豊かな生涯学習機会の創出 (2) 地域における学びの充実 (3) 人生 100 年時代の学び直し
4 文化芸術振興による豊かな 創造性を育むまちづくり	(1) 音楽に親しめる環境づくり (2) 文化芸術を通じた創造性向上 (3) アートに親しめる環境づくり

【活力】 東北の活力を生み出す創造のまちへ

1 時代の変革に対応する 地域経済の成長まちづくり	(1) 地域経済を牽引する企業の輩出 (2) 中小企業の持続性向上・経営力強化 (3) イノベーションの促進 (4) 農林業振興
2 多様な人材が活躍し 社会のイノベーションを 生み出すまちづくり	(1) 起業支援 (2) 多様な働き方の推進 (3) 若者の地元定着促進
3 仙台ならではの魅力の磨き上げ と交流人口ビジネスの活性化	(1) 観光資源磨き上げ・受入環境整備 (2) 誘客促進・発信力強化 (3) 広域連携強化 (4) スポーツ振興
4 エリアの特性を活かし活力を 生み出す都市機能の強化	(1) 機能集約型まちづくり (2) 都心まちづくり (3) 地下鉄沿線まちづくり (4) 活発な都市活動を支える交通政策の推進 (5) 公共交通の快適性・利便性向上 (6) 既存ストックの利活用促進

2 分野ごとの施策の方向性

【環境】世界に発信する防災環境都市へ

1 防災環境都市づくり

- (1) 東日本大震災の経験と教訓の継承・発信
 - ・ 仙台防災枠組 2015-2030 の推進（国際会議等での震災の教訓の発信）
 - ・ 震災復興メモリアル事業の推進（震災遺構等活用、中心部震災メモリアル拠点整備）
- (2) 防災意識の高い地域づくり
 - ・ 仙台市地域防災リーダー（SBL）の養成・活動支援
 - ・ 女性や若者など、地域における防災・まちづくり活動で活躍できる人材の育成
 - ・ 多様な主体と連携した防災減災対策（地域と協力した避難所運営、災害時要援護者への対応、帰宅困難者対策など企業との連携促進）
 - ・ 仙台版防災教育の推進（教員育成含む）
- (3) 強靱な都市基盤の整備
 - ・ あらゆる災害のリスク分析を踏まえた強靱な都市基盤づくり（災害時の移動・物資輸送経路の確保、甚大な被害をもたらす可能性のあるライフライン施設の災害予防等）、災害時の情報収集・伝達手段の充実
 - ・ 気候変動によるリスクへの備え（影響や適応策の発信等）
 - ・ 公共施設の耐震化・長寿命化、浸水対策
- (4) 防災を通じた地域経済の活性化
 - ・ 防災・減災分野における先端技術の実証フィールドの提供・導入促進、防災ビジネスの促進

2 環境に優しい快適に過ごせるまちづくり

- (1) 脱炭素社会を目指したまちづくり
 - ・ 温室効果ガス排出削減
 - ・ 再生可能エネルギー導入促進、消費エネルギーの削減
 - ・ 脱炭素型ライフスタイルに向けた啓発（環境意識の高い人材育成、環境に関する学びの場の創出）
- (2) 資源循環まちづくり
 - ・ プラスチック等資源循環の推進
 - ・ 食品ロス削減をはじめとする市民協働によるごみ減量とリサイクルの推進
 - ・ 廃棄物の適正な処理の徹底
- (3) 自然と共生したまちづくり
 - ・ 森林や里山など豊かな自然資源の維持管理・保全
 - ・ 生物多様性の保全に向けた啓発
 - ・ 水辺環境の保全と、触れあいの場の充実
 - ・ 自然環境と都市機能が調和した土地利用の推進

3 杜の都の息吹を感じられるまちづくり

(1) 暮らしを彩る緑の活用

- ・魅力ある公園づくり
- ・街中や民間・公共施設の緑化推進
- ・緑化の推進や保全活動、農との触れあいなど市民がみどりに親しみ、守り育む活動の促進
- ・居久根やランドマークとなる名木・古木などみどりの歴史・文化資源の活用

(2) 歴史と風格を感じるまちづくり

- ・景観条例や景観計画、広瀬川の清流を守る条例などに基づく良好な景観形成（老朽化建物更新時の配慮等）
- ・歴史文化資源の保全と活用（仙台城跡や青葉山公園の整備推進、陸奥国分寺跡・国分尼寺跡など文化財の保全、市民や観光客が楽しめる環境づくり）

(3) グリーンインフラの導入

- ・環境への効果や災害リスクの低減などを念頭に置いた緑化政策の推進
- ・子育て・教育・コミュニティづくり・健康福祉等幅広い分野での緑の多機能性の活用

【共生】多様性が社会を動かす共生のまちへ

1 長寿を謳歌し健康で生きがいをもって暮らせるまちづくり

(1) 健康で生きがいを持って活躍できるまちづくり

- ・健康寿命延伸に向けた一人一人の体と心の健康づくり
- ・医療・救急体制の充実（医療機関との連携促進、救急需要増加への対応）
- ・高齢者の知識や経験、能力を活かした活躍の場づくり、社会活動への参加促進

(2) 住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり

- ・多様な生活支援サービスを提供する体制づくりや居住環境の整備
- ・地域包括支援センターや医療・介護などの関係機関と連携した在宅支援
- ・地域における支え合いの担い手育成、活動支援
- ・認知症の人が安心して暮らせる体制づくり

(3) 介護サービス基盤の充実と人材確保

- ・介護サービスを担う人材の確保、高度化する介護ニーズへの対応に向けた人材の育成
- ・ICTを活用した医療や介護分野が抱える課題解決の促進、健康産業の振興
- ・各種介護サービス基盤の整備

2 障害のある方もない方も違いを尊重し、支えあうまちづくり

(1) 共生社会の実現に向けた障害理解の促進

- ・市民に対する障害理解の促進（オリンピック・パラリンピックを契機とした障害理解の啓発、障害理解サポーター養成、障害者スポーツ体験等を通じた理解促進）
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザインのまちづくりの浸透

- (2) 障害のある児童や発達に不安を抱える児童への支援
 - ・ 早期療育の重要性の啓発・相談体制の整備
 - ・ 発達特性に応じた支援体制づくり（アーチル・幼稚園・保育所・学校等をはじめとした関係機関の連携強化、放課後等デイサービスなどの療育支援）
- (3) 安心して暮らせる生活環境の整備
 - ・ 地域での生活を支えるための相談支援体制の整備（区役所、専門的な相談機関、多様な障害特性に応じた相談機関）
 - ・ グループホームをはじめとした生活基盤の整備
 - ・ 重症心身障害・医療的ケア児者に対する支援体制の整備、医療・福祉・教育分野における連携の促進
 - ・ 障害福祉サービスの提供を担う人材の確保・定着
- (4) 生きがいにつながる就労と社会参加の促進
 - ・ 雇用促進、啓発、就労定着の取り組み（障害特性に応じた多様な就労環境の整備、企業等の理解促進に向けた啓発）
 - ・ スポーツ・文化芸術など交流活動への参加促進

3 子育てしやすいまちづくり

- (1) 切れ目のない子育て支援の充実
 - ・ 子育てに関する相談体制充実（子育てふれあいプラザ、区役所、児童館、保育所等）
 - ・ 妊娠前から妊娠期、出産、子育て期と切れ目のない支援体制の構築（産後サポート体制の充実、切れ目ない健診体制の整備）
 - ・ 子育ての経済的負担軽減
- (2) 安心して子どもを預けることができる環境づくり
 - ・ 待機児童解消に向けた多様な保育基盤の整備
 - ・ ニーズに応じた多様な保育サービスの充実
 - ・ 保育士等の確保・育成
- (3) 子どもたちを守るセーフティネットの強化
 - ・ 児童虐待、DVなどへの対応（児童相談所の機能強化等）
 - ・ 事故や犯罪に巻き込まれないような地域ぐるみの見守り
 - ・ 貧困家庭やひとり親への支援
- (4) 子育て応援まちづくり
 - ・ 仕事と家庭の両立支援（企業の理解促進、男性の育児参加の促進など男女の役割分担意識の払しょくに向けた啓発等）
 - ・ 子どもたちが多様な体験・遊びができる場づくりの促進、子育て情報のわかりやすい情報発信
 - ・ 地域における身近な子育て支援機能の充実（子育てを学べる機会や親子が気軽に集い交流できる機会の提供）

4 多様な主体が地域に関わり、支えあうまちづくり

(1) 地域の顔が見える関係づくり

- ・ 町内会等地域活動団体支援、担い手確保
- ・ 住民主体による地域づくりを応援する支援体制の整備（地域情報や課題を共有する場づくり、協働事業の推進）

(2) 多様な主体が連携する環境づくり

- ・ 企業や学生など多様な主体が地域に関わりやすい環境づくり、協働事業の推進
- ・ 市民センターや市民活動サポートセンターなどの拠点を活かした地域活動支援、地域の担い手や多様な主体をつなぐコーディネーターの育成・支援
- ・ 地域交通の検討・実践支援

(3) 多文化共生社会づくり

- ・ 相談機能の充実、地域との交流の場づくり
- ・ 外国人の子どもの教育環境への適応支援、防災意識の啓発などへの丁寧な対応
- ・ 国際交流の推進

(4) 男女共同参画の推進

- ・ 政策形成過程への女性の参画、男女共同参画への理解促進
- ・ 女性に対する暴力の根絶、あらゆるハラスメント防止対策

(5) 多様な性のあり方を尊重する環境づくり

- ・ 多様な性のあり方への理解促進
- ・ 多様な性のあり方に起因する困難への支援策の検討・実施

(6) 安全安心な暮らしを支える環境づくり

- ・ 空き家・空き地の適正な管理、防犯対策、消費生活における安全安心の確保
- ・ 道路施設の適切な維持・管理、生活道路の交通安全対策、自転車利用環境の整備
- ・ 災害等への消防対応力の強化（消防施設等の整備、消防活動体制の確保）
- ・ 地域と一体となって取り組む救急対応の普及啓発・火災予防対策の推進、消防団活動の維持継続支援や担い手の確保

(7) 郊外地域の地域再生

- ・ 暮らしを支える都市機能の維持・改善

(8) 誰もが安心して共生できる地域福祉の推進

- ・ 地域福祉活動推進のための担い手の育成・支援
- ・ 住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりの支援
- ・ 複合的な課題等の解決に向けた、関係機関のネットワークづくりの促進

【学び】 学びと実践の文化が根付くまちへ

1 子どもたちが健やかに学び成長する環境づくり

(1) 個性と社会性を育む環境づくり

- ・ 職業体験活動や探求学習など社会とのつながりや多様な主体とのコミュニケーションを通じた、自己肯定感、社会性や職業観を育む取り組み
- ・ 多様性を理解し、思いやる心を育む取り組み（道徳性をはぐくむ教育、児童生徒の発達段階に応じた人権の重要性、情報化社会におけるモラルの醸成）
- ・ 幼少期からの非認知能力を育む取り組みや重要性の啓発（幼児教育の推進）、幼保小連携の円滑化に向けた取り組み

(2) 確かな学力の育成

- ・ 基礎的知識の定着・応用力の育成、学習意欲向上
- ・ 英語、プログラミング、ICT活用など時代に沿ったカリキュラムへの適確な対応、情報化推進
- ・ 学習が遅れがちな児童生徒への個の状況に応じた指導・支援
- ・ 体力の向上、食育など望ましい生活習慣づくりの推進

(3) 地域とともに歩む学校づくり

- ・ 学校・家庭・地域総ぐるみで考える学校運営（コミュニティ・スクール推進）
- ・ 地域と連携した子供達への豊かな体験活動の場の提供（学校支援地域本部事業）
- ・ 放課後子ども教室推進事業

(4) 安心して学べる環境整備

- ・ いじめ・不登校の未然防止対策、相談体制の充実、心のケア
- ・ 教職員の多忙化解消に向けた取り組み
- ・ 特別支援教育の充実
- ・ 不登校児童や外国人をはじめ様々な事情により学びに困難を抱える子どもへの支援、心のケア

2 学都・仙台の資源を活かしたまちづくり

(1) 若者の力を活かしたまちづくり

- ・ 大学等教育機関と地域の接続の促進
- ・ 若者が政策形成に参画しやすい環境づくり

(2) 知的資源を活かしたまちづくり

- ・ 次世代放射光施設整備を見据えた、研究開発促進・人材育成、大学ベンチャーの支援
- ・ 大学のネットワークを活用したコンベンション誘致
- ・ 学都仙台コンソーシアム運営支援（大学間連携促進、市民向け学びの提供）

3 多彩な学びを楽しみ、社会に活かせるまちづくり

(1) 豊かな生涯学習機会の創出

- ・多彩な社会教育施設（動物園、天文台、博物館、科学館等）の機能充実による楽しんで学べる環境づくり
- ・官民の垣根を越えた多彩な学びの資源の連携促進
- ・社会教育施設運営やイベントのボランティアなど担い手づくりと学びの人材ネットワークの充実

(2) 地域における学びの充実

- ・市民センター等身近な社会教育施設において、市民に学びの機会を提供し、地域づくりにつながる担い手の発掘・育成を推進
- ・仙台で培われてきた自然・歴史資産や生活文化など市民による奥深い学びの資源の発掘・発信（地域への愛着喚起）

(3) 人生100年時代の学び直し

- ・リカレント教育、高齢者の学び直し（グローバル、テクノロジー、地域づくりなど個人の視野を広げ実践できる環境づくり）

4 文化芸術振興による豊かな創造性を育むまちづくり

(1) 音楽に親しめる環境づくり

- ・仙台クラシックフェスティバルや仙台国際音楽コンクール、定禅寺ストリートジャズフェスティバルなどのイベントの開催、市民が音楽に親しめる環境づくり
- ・楽都の拠点づくり（音楽ホール整備検討）

(2) 文化芸術を通じた創造性向上

- ・青年文化センター、演劇工房10-BOX、能BOX活用での取り組みをはじめとする舞台芸術を通じた創造性・表現力の向上、伝統文化の継承

(3) アートに親しめる環境づくり

- ・美術や映像など、市民がアートに親しめる環境づくり

【活力】東北の活力を生み出す創造のまちへ

1 時代の変革に対応する地域経済の成長まちづくり

(1) 地域経済を牽引する企業の輩出

- ・地域を牽引する企業の集中支援、域内支援機関との連携促進
- ・海外・首都圏等への販路開拓、事業展開、仙台港・仙台空港の利活用促進
- ・産学連携や外部人材の活用などによる新事業展開、新商品開発支援

(2) 中小企業の持続性向上・経営力強化

- ・事業承継の円滑化（人材不足への対応）、経営改革を含めた組織体制の強化や中核人材の育成、諸課題に対する関係機関との連携
- ・企業間連携の促進やビジネスマッチングなど域内資金循環の拡大
- ・地元や地域に根差した企業活動の促進（CSR、CSV）、商店街の活性化

(3) イノベーションの促進

- ・次世代放射光施設の立地を中核とした研究開発拠点及び企業の集積、東北連携による産業力の強化
- ・ヘルステック、ケアテック、アグリテック、BOSAI-TECHをはじめ、最先端技術と社会課題を抱える分野との接続
- ・ICT企業の集積やICT活用による生産性向上、人材の育成・確保
- ・オープンイノベーションによる新規事業の創出、実証実験及び社会実装

(4) 農林業振興

- ・農業の収益性向上（6次産業化推進、地産地消の推進）
- ・多様な経営体の育成（農業経営体支援、担い手育成）
- ・生産基盤の確保（農地・農業用施設の整備、長寿命化）
- ・多面的機能の維持・向上（農業・農村の維持活動推進、森林環境税・譲与税を活用した林業振興）

2 多様な人材が活躍し、社会のイノベーションを生み出すまちづくり

(1) 起業支援

- ・社会的・経済的インパクトを生み出すビジネスの創出、大手企業や大学等と連携した協業促進
- ・仙台・東北の社会課題解決に取り組む起業家の育成、交流・協業促進
- ・起業のすそ野の拡大

(2) 多様な働き方の推進

- ・女性の活躍促進、外国人の活躍
- ・高齢者・障害者等の就労促進
- ・仕事と家庭の両立支援（育児、介護等）
- ・多様で柔軟な働き方の導入促進（テレワークや兼業・副業、リカレント教育など）

(3) 若者の地元定着促進

- ・地元企業の情報発信強化、地元企業と学生等との交流機会創出、高度人材等U I Jターン、奨学金返還支援
- ・児童生徒や学生が地元企業を知る、働く楽しさを知る機会の創出

3 仙台ならではの魅力の磨き上げと交流人口ビジネスの活性化

(1) 観光資源磨き上げ・受入環境整備

- ・滞在時間延長や消費を促進させる体験プログラムをはじめ、地域特性を活かした多彩な観光資源の発掘・創出、観光に係る担い手育成、来訪者の受入環境整備
- ・仙台西部地区における豊かな自然資源や温泉等を活かした観光振興
- ・閑散期や平日の誘客促進を通じた宿泊施設や飲食店等の稼働率向上に向けた取り組み

(2) 誘客促進・発信力強化

- ・ターゲットを明確化した観光プロモーション
- ・インバウンドの推進・コンベンションや企業内会議
- ・研修会等（M I C E）の誘致

(3) 広域連携の推進

- ・東北一体となった国内外への魅力発信、復興ツーリズム
- ・東北の魅力を発信する拠点整備、東北におけるネットワークの強化

(4) スポーツ振興

- ・プロスポーツ振興
- ・スポーツイベントの開催をはじめ、市民がスポーツに親しめる環境づくり
- ・東京オリンピック・パラリンピックのレガシーの醸成（スポーツボランティア、パラスポーツ普及等）

4 エリアの特性を活かし活力を生み出す都市機能の強化

(1) 機能集約型まちづくり

- ・土地利用と交通政策の一体的な推進による、機能集約型市街地の形成（市街地の拡大抑制、都心、拠点、都市軸などの交通利便性の高い地域への都市機能の集約、公共交通を中心とした持続可能な交通網の形成）

(2) 都心まちづくり

- ・民間建築物の建て替え促進、再開発による賑わい創出等の拠点形成、企業誘致促進、ゼロ・エネルギー・ビルディング
- ・定禅寺通活性化をはじめ、歩いて楽しめるまちづくり（回遊性向上）
- ・中心部商店街の賑わい創出、活性化
- ・都心の回遊性と都心へのアクセシビリティを高める交通環境づくり

(3) 地下鉄沿線まちづくり

- ・地域特性に応じ、土地区画整理事業や優良建築物等整備事業を活用した都市機能の集積や、エリアマネジメントの推進
- ・泉中央駅、長町駅、荒井駅など交通結節点にふさわしい魅力あるまちづくり

(4) 活発な都市活動を支える交通政策の推進

- ・社会・経済活動を支え、物流・交流を促進する道路網の形成
- ・良好な都市環境を維持、向上するための交通環境の改善

(5) 公共交通の快適性・利便性向上

- ・公共交通の利用促進（マイカーからの転換などモビリティ・マネジメント等）
- ・快適な地下鉄利用に向けた整備、バス乗り場の利便性向上
- ・最先端モビリティシステムの導入

(6) 既存ストックの利活用促進

- ・リノベーションの促進
- ・道路等公共空間の利活用推進
- ・まちづくり人材・組織の育成・活動支援

V 区別計画

- ・人口減少や少子高齢化の進展は、区ごと、地域ごとに異なり、課題も様々です。今後はより一層、地域住民が主体となって地域づくりに積極的に取り組める環境づくりが重要になります。
- ・自分と関わりのある区や地域を見つめ直し、今後の地域づくりの方向性を共有するとともに、一人ひとりが日常生活をより豊かにし、自分と縁がある地域のために何かしたいという想いを行動に移すきっかけになるよう、区別計画を策定します。
- ・区民とともに協働意識を高め、多様な主体がつながりを持って地域づくりに取り組み、安心して暮らすことができる地域社会を目指していきます。
- ・以下、各区の計画を掲載

VI 総合計画の着実な推進

1 行政運営の方針

(1) 持続可能な都市マネジメント

- ・健全な財政運営の推進（歳入確保、受益負担のあり方検討、歳出削減、事業重点化）
- ・公共施設総合マネジメントの推進（総合的な管理・保全の強化（長寿命化の推進等）、施設の質・量の適正化、民間活力の導入推進）
- ・人材育成の方針

(2) 大都市としてのまちづくり

- ・政治・経済・文化など多様な分野にわたる東北の牽引
- ・地域を起点とした施策の形成、区役所の機能強化など協働体制の構築
- ・国や県との役割分担の見直しによる、質の高い市民サービスの提供に向けた地方分権の推進

2 進行管理の方針

現行計画では実施計画策定、市民協働による評価・点検等を記載

VII 資料編

総合計画審議会の審議経過、市民参画イベント等の結果、統計データ、用語集等